

【NEWS RELEASE】

2021年2月22日

各 位

株式会社三井住友銀行

株式会社ダイセルに対する「ESG/SDGs評価」に基づく
シンジケートローンを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、株式会社ダイセル（代表取締役社長：小河 義美）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくシンジケートローンを組成いたしました。

本件は、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、株式会社ダイセルのESG側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）達成への貢献を評価し、その趣旨に賛同頂いた金融機関によって組成されるシンジケートローンとなります。

今回対象となりました株式会社ダイセルの取組は、環境側面（E）、社会側面（S）、およびガバナンス側面（G）の各項目について高い水準であると判断され、サステナビリティに向けた企業経営において、優れた取組と情報開示を実施されており、また、事業を通じたSDGs達成への貢献意欲が高いことから、上位評価の取得となりました。

特に、ESG及びSDGs達成に向けた取組では、以下の内容が高く評価されました。

E：自社の事業に伴うCO2排出量等の実績値について、国内グループ会社を含め把握しているとともに、2050年に向けた長期ビジョンと2030年に向けた定量的な環境目標を設定していること。また、天然由来資源を有効活用するバイオマスプロダクトツリー製品の開発や、生分解性樹脂・新規水処理膜、摩擦を制御する省エネルギー技術の開発に注力する姿勢を示しており、製品を通じて持続可能な社会の実現への貢献が期待できること。

S：従業員への配慮として健康経営に向けた取組等を推進しており、育児・介護休業等の取得者数や有給休暇取得率、女性管理職比率等を開示していること。また、事業を通じた社会的課題解決の取組として、メディカル分野における製品提供を通じた感染症対策や、自動車エアバックインフレーター等の供給を通じた安全対策等への貢献が期待できること。

G：「社会と人々の幸せ」「幸せを提供する環境」「働く人の幸せ」を基軸としたサステナブル経営方針を掲げ、長期的視点に立った経営を実践することで、マルチステークホルダーに配慮する姿勢を示しており、長期ビジョンや中期経営計画に反映されていること。

SDGs：持続可能な社会の実現に向けた具体的な取組として、「バイオマスプロダクトツリー」等の社会的課題解決に資する製品を開発し、その普及を通じてSDGsが示す「目標12」「目標14」等の達成への貢献が期待できること。

三井住友銀行では、「E S G / S D G s 評価シンジケーション」のE S G評価を踏まえた情報提供を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

【シンジケートローンの概要】

アレンジャー：株式会社三井住友銀行、株式会社三菱UFJ銀行

エージェント：株式会社三井住友銀行

組成金額　　：500 億円

貸出人　　：45 金融機関

以　上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。